

ふくしま県人会だより

第 3 号
平成13年1月
編集発行
福島県人会
北海道連合会

各県人会だより

観楓会の報告

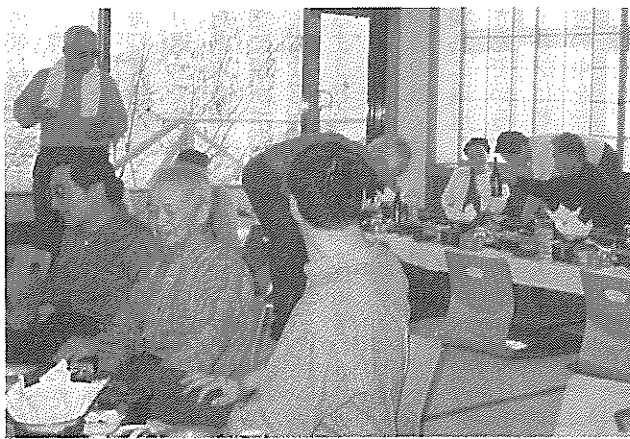
平成十二年の観楓会は役員の鳩首会議の結果、県人会員の丸駒温泉と決定し、会員百十五名に案内した。

出席は会長を初め二十四名、県事務所から四名、計二十八名で実行した。若手会員が都合が悪く欠席したのは残念だった。

札幌時計台横の中小路に集合、十時出発、真駒内駅で南区の会員が乗車し、人員の確認後、紅葉織成す道々四五三号線を会員古内氏の貸切バスで順調に一路目的地丸駒温泉へと南下した。

途中の山野は、近來稀なる絶好の観楓会日和に助けられ、天も我々に味方したのか恵庭岳の松の緑と紅葉は今が盛り、山頂は既に落葉していたが山麓は今が酣、湖畔に映えるロケーションは一幅の絵画を思わせるに足る情景を目の当たりにして、暫くぶりの会主催の観楓会に皆、大いに日頃の疲れを癒すことが出来たものと確信いたします。目的地の丸駒温泉では、有名な露天風呂で一風呂浴びて疲れを取り、湖畔の見える大広間に集合、会は企画実行の主宰者である磯部氏の巧妙な司会により進行した。会長挨拶に続いて県事務所長の挨拶、そして乾杯で山海の料

理を頂く宴会となった。中半カラオケも入り、盆踊りやそれ御無沙汰のやり取り…。来年の母県訪問等県人会事業にご協力の程お願いして各席を回っているうちに予定時間となり、名残尽きないが車内に戻る。



振り返って本当に好天に恵まれ十月二十八日大安、加えて格安料金での実行であり、数多くの会員の参加を願うての企画ではありましたが、来年もあることですので、今後ともご参加くださるようお願いいたします。

最後に丸駒温泉の佐々木さん、県事務所長の若手職員の方々、ありがとうございました。お礼申し上げます。

(札幌県人会)

新年の「あいわじ」

会長 上田 小八重

新年おめでとうございます。いよいよ二十一世紀のはじまりです。千載一遇のこの輝かしい新年を、皆様と共に迎えることができますこと、心からお喜び申し上げます。

昨年九月、見事四期目当選を果たされた佐藤栄佐久福島県知事から、県人会の皆様へ、ご挨拶状が届いておりますのでご披露申し上げます。

「これまで、『二十一世紀の価値観』を基本理念として、県民の立場に立った県政を推進してまいりましたが、今後の四年間は、これまでの県政の成果を大きく花開かせ、人間の安全、とりわけ人の命の大切さにつながる人格と人権を尊重した公平で安全な生活空間を創造し、新世紀にふさわしい『地球時代のふくしまづくり』に向かって誠心・誠意努力してまいる所存であります。」

このような誇れる知事と、発展して



やまない母県をもつ私達は、幸せだと思います。本年は、「うつくしま未来博」が開催されます。道連合会としては、母県訪問団を組み参加を計画致しております。また、恒例の全道総会は、五月函館市にて開催。地元一同準備に当たっておりますので、こちらにも多数ご参加を期待いたしております。景気の回復はいまだ進まず、私達を取り巻く情勢は厳しいものがあります。不撓不屈の県民魂は二世、三世にも引き継がれており、県人会の結びつきを力にして、共に励んでまいりたいと存じます。

皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げて、新年のご挨拶といたします。

福島産「もも」のPRに一役

旭川県人会は、八月十日から十三日まで旭川市大雪アリーナで開催された「日本のまつりふるさと・旭川二〇〇〇」において、福島県産「もも」の販売を応援しました。



このまつりは、全国の伝統芸能を披露すると共に、各地の特産、名産品を

販売するもので、福島県からはこの季節にぴったりの「もも」が出品されました。

お祭りの初日には、ミススピーチが来場したお客さんに、本県のものも主

カ品種である「あかつき」をPRしました。「もも」を販売するには試食(食べると甘くて美味しいので買ってくれる)していただくことが一番大事なのですが、その皮むきが大変です。

県事務所からの依頼がありましたので、旭川県人会は、婦人部が中心になって、毎日二人ずつの当番制で皮むきと販売のお手伝いをしました。本県産の「もも」は大人気で、一人で五箱も買う人もあり、早々に完売する日もありました。

(旭川県人会)



ゼビオ(株)社員から帯広市職員へ

帯広県人会 松本 俊光

皆さんこんにちは。この度県人会に入会しました松本俊光です。ご当地「帯広」には二年前の七月に会社の転勤で参りましたが、今年一月、当市の「民間企業経験者採用試験」に合格し、四月より市職員として帯広永住を決めました。人生の再スタートを切りました。

簡単なプロフィールを申し上げますと、一九六九年福島県いわき市生まれ。父が福島銀行に勤めている関係上、郡山市・白河市・福島市・いわき市・原町市と県内を転々と暮らしておりました。

学生時代を京都で過ごし、一度東京の出版社に勤めた後、五年前に郡山市に本社のある「ゼビオ株式会社スポーツ事業部」に入社。札幌新発寒店のオーブンに合わせて北海道入りをし、その後岩見沢店、帯広いききゅう店と慌ただしく働いてまいりました。

ところで、ここ帯広には学生時代に一度来ておりまして、十年前の夏、友人のついで清水町の酪農家である井沢喜文さんのお宅にお邪魔をして、約三週間ほど仕事のお手伝いをさせてもらったことがあります。青空と白い雲そしてどこまでも伸びるまっすぐな道と広い畑に感動し「いつかここで暮らしてみたい」と考えていたことが現実になったというわけです。

ここ十勝に住み始めたばかりの新人ですので、今後ともよろしくお願い致します。ちなみに、現在の配属は商工観光部観光課観光係です。何かご用がございましたら是非ご連絡下さい。

合同観楓会に参加して

美幌県人会 加藤 利男

昨日までの好天が早朝から雪となるなか、十八名がバスに乗り、午前十時に出発した。戸戸会長より挨拶があり観楓会参加の会員に対して御礼と二日間の行程スケジュールの説明があった。あいにくの雪で視界もまったくため、

天下の絶景も見えず、美幌峠を後に一路洪中へと向かった。途中の少憩時間で、腹から暖めるコップや、食糧等を買って再び車内に戻った。

外は雪が続き、ワイパーも休み無しで運転手さんは神経の遣い通し、戸戸会長も前の席から身を乗り出して窓拭きをしていた。バスは弟子屈温泉、標茶太田村を通過し、酪農地帯の一本道を走り抜けた。車窓は日本有数の酪農地帯だが、乳牛の姿や木々の青葉も無く雪に覆われて冬真っ盛りといった風景だった。「県人会だより第二号」の別海町真壁国男さんの手記「七十年を振り返って」を思い出し、この地で開いた県人会の皆さんの不屈の闘志と頑健さに頭が下がる思いだった。

私は昭和二十五年渡道、五〇年が過ぎようとしているが、住み着いた北海道に居ながら、ふっと郷里を偲び級友や隣の祖父母を思い出し、入浴時に「新相馬二遍返し」などを口ずさんでいる今日この頃です。

バスは暫らく降りしきる雪の中を無事観光ホテルに到着した。玄関では浜中県人会の皆様が歓迎を受けて各々部屋で寛いだ。三時間のバス旅行だったが自然の観光地が見られなかったのが残念だ。

今年で十八回目を迎える道東合同観楓会は、いつも挨拶より先に乾杯する。



いかにも同県人の宴と言ったところであり、国のなまりを存分に話し合える気安さは都会には無い温もりがある。

宴会では昔話や故郷の近況を語り合い、カラオケや踊りを披露し、一年ぶりの再会を懐かしんだ。それぞれに楽しい時間を過ごしていると、あつという間に予定時間が過ぎてしまい、名残惜しみながら次年度の別海町で会うことを約束した。

孫の話をする年代になった。過ぎ去った日々を思い明日へ向かって朗らかに健康で楽しく過ごそう。そして、二〇〇一年が輝く年でありますように會員皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

最後に、浜中町の伊藤会長を初めスタッフの皆様、大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

新會員紹介

浜中町県人会

- ◆ 天野 登恵 (あまの たかよし)
- ◆ 及川 寿人 (おいかわ としひと)

苫小牧県人会

- ◆ 千葉 茂雄 (ちば しげお)
- ◆ 千葉 ひさこ (ちば ひさこ)

相馬市 相馬市 相馬市

旭川県人会

- ◆ 加藤 徳弥 (かとう とくや)
- ◆ 斉藤 浅治 (さいとう あさじ)

帯広県人会

- ◆ 大石 誠治 (おおいし せいじ)
- ◆ 加賀 トキ子 (かが ときこ)
- ◆ 川端 玲子 (かわはた れいこ)
- ◆ 菅野 仁一 (かんの じんいち)
- ◆ 菅野 みつ子 (かんの みつこ)
- ◆ 鈴木 久子 (すずき ひさこ)
- ◆ 長谷川 美代 (はせがわ みよ)
- ◆ 古川 直人 (ふるかわ なおと)

函館県人会

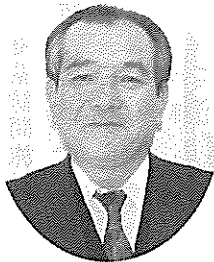
- ◆ 西田 勝 (にしだ かつ)

梁川町 月館町 二本松市 いわき市 猪苗代町 相馬市 相馬市 鹿島町 三春町 郡山市 本郷町

OBのお便り

「悟り」

第十一代 所長 横田 泰助 (ふるさと福島塾事務局長)



札幌を離れてはや七年、皆様にお世話になり、県職員三十六年間で一番楽しかった北海道の三年間を走馬灯のように思い出しては、いつもニコニコしております。

悟りとは、出会いである。人との出会いを大切にすることにより悟りが開けるのです。

(ダライ・ラマ一世)

小生も少し悟りまして、昨年一年残し県職員を退職。二〇〇〇年区切りの四月より、町おこし、村おこし、農山村活性化の一助にと専任アドバイザーなる仕事をしております。

北海道も然りでしょうが、今、農山村は高齢化、高齢化で後継者不足等々、いろいろな問題や悩みを抱えており、やれ地域の活性化よ、都市と農村の交流よと頑張ってはおりますが、これといった特効薬も無く、政治のせいにもしたくなります。

—— 悟りも遠いようです。

さて、二〇〇一年は母県訪問の年、「うつくしま未来博」もありますので、どうぞご参加ください。再会を楽しみにしております。

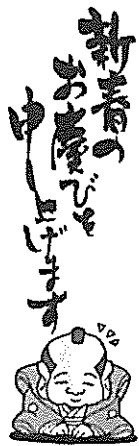
新世紀が、皆様にとりまして、素晴らしいスタートとなりますようにお祈り申し上げます。

ふるさと情報

福島県と北海道

福島県と北海道の結びつきは、文化五年(一八〇八年)の会津藩による北方警備に始まりますが、その後、函館戦争の関わり、屯田兵による入地、民間による入植開墾、昭和に入つての福島団体の入植等道内にその足跡が数多く残っています。そして、それらの縁をもとに、また新しい交流を求めて、左記のとおり、姉妹都市協定を結んでいます。

【姉妹都市の状況】	
福島県	北海道
相馬市	豊頃町
相馬市	大樹町
梁川町	松前町
長沼町	長沼町
新地町	伊達市



連合会の活動

(今年の予定)

第一回福島県人会連合会役員会

日時 平成十三年一月三〇日

場所 京王プラザ (札幌市)

第二回福島県人会連合会役員会

日時 平成十三年五月二十六日

場所 花びしホテル (函館市)

第二十九回福島県人会連合会総会

日時 平成十三年五月二十六・二十七日

場所 花びしホテル (函館市)

第十一回母県訪問旅行

日時 検討中

見学地 「うつくしま未来博」ほか

母県訪問

「平成十二年の三大ニュース」

・「アクアマリンふくしま」オープン (七月十五日 いわき市)

・佐藤栄佐久知事四選 (九月三日)

・全国育樹祭 (九月十七日 猪苗代町)

うつくしま未来博



協賛金のお願い

キビィ

二十一世紀の最初の年に開催される「うつくしま未来博」は、これまでのただ見学するだけの博覧会ではなく、参加型の新しい博覧会です。この博覧会は、福島県を世界にも誇れる住みよい地域とするため、県民みんなで考え、みんなで行動しようという、うつくしま、ふくしま。県民運動のシンボル事業で、各種団体、企業、個人など多くの人たちが様々な形で参加します。企業のパビリオンの出展による参加もありですが、福島県人会北海道連合会は、協賛金という形で未来博に参加することになりました。つきましては、会員の皆様募金をお願いすることになりますので、よろしくお願ひします。

うつくしま未来博

前売入場券好評発売中

普通入場券	第2期前売 (13年1月~)	当日券
大人	2,800円	3,000円
高校生	1,700円	2,000円
小中学生	1,300円	1,500円

満65歳以上の方・身体障害者手帳等をお持ちの方は「特別割引入場券」が使えます。

特別割引入場券	1,600円
---------	--------

【お問合せ先】
福島県北海道事務所
TEL:011-241-8717



みなさん
よろしく
お願いします

キビマル

編集後記

二十一世紀の幕開けを飾るにふさわしい「県人会だより」となるよう、事務局一同張り切って発行の準備を進めてきました。会員の皆様からの積極的な投稿もあり、充実した「だより」に仕上がったのではと自負しております。

今回も引き続き新会員を紹介することが出来ました。大変喜ばしいことです。新会員が増えることは、各県人会に新しいエネルギーが注ぎ込まれることであり、会の発展には欠かせませんので、今後とも引き続き新会員の発掘に力を注がれますようお願いいたします。

さて、二〇〇一年はいよいよ未来博開催の年です。母県福島県のビックイイベントでありますので、県人会の皆様ぜひ「参加ください。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。」

第三号をお届けします。発行を続ける事は大変ですが、会員の皆様の支援(原稿)があれば簡単なことです。(山口)

「去年今年貫く棒の如きもの」とはいえ何かを期待してしまふ二十一世紀の幕開け...。(大田)

北海道で迎える初めての冬、霜月から大量の「天花」。歓迎しているのかな? でも今年ア豊年だよ! (高田)

すっかり日が短くなり、仕事が終わるともう真っ暗。なんだか一日がとても短く感じて損をした気分。早く春が来ないかな...。(志津)